

# 佐 潟 通 信

2009年3月

## 37号

—佐潟のこの1年の歩み—

### ◆湿地センター開館10周年記念会 2008年5月18日

佐潟水鳥・湿地センターが開館10周年を迎え、記念会を開催しました。たくさんの地元住民や関係者、そして親子連れらが参加しました。皆さまからのご祝辞をいただき、野鳥観察や佐潟散策の拠点として多くの人に親しまれてきた10年の歩みを振り返りました。

その後、「しろね大凧と歴史の館」の方々の協力で、凧名人の指導を受けながら、凧を作りました。それぞれ個性のある凧ができあがり、センター脇の広場でみんな満足そうに凧を上げました。最後には、六畳の大凧が上がるとみなさんの大歓声が印象的でした。



記念会



みんなで作こづくり



広場でたこあげ

### ◆植物観察とワイズユース体験

2008年6月8日



植物観察



潟舟から観察



採った植物を天ぷら



佐潟を体感したよ！満足

新潟市内外の親子29人の参加をいただき、「食べられる植物観察」をテーマに湿地センター主催で行いました。

地元の協力もいただき潟舟に乗る体験を加え、佐潟を五感で感じることができました。案内してくれた中村忠士さん、漁協の高橋忠男さん・金子勲さん・森田忠夫さん、ありがとうございました。

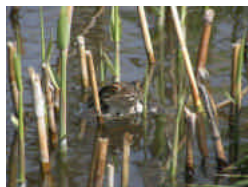
### ◆「わたしの佐潟」展

2008年5月1日～5月31日

湿地センター開館10周年を記念し、写真や手紙、絵画、書、短歌詩歌などをハカキ大で公募し展示しました。21人37点の参加をいただき来館者に喜ばれました。

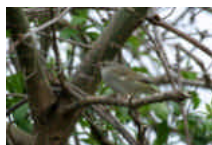


佐潟橋を渡っての桜並木



アズマヒキガエル

## 春



ウグイス



潟主の高橋さんの案内で、潟に隣接の赤塚中学校の生徒が舟体験。学校から眺める佐潟とはまったく違う風景に感動の声が上がっていました。



セスジイトトンボ



赤塚小学校による菜の花畑

## ◆ぼくとわたしの夏休み「佐潟の昆虫だぁ」 2008年7月27日



佐潟と歩む赤塚の会と湿地センターの共催で開催し、親子10組、34人の参加をいただきました。講師に同会の飯田 武さんを迎え、虫取りを始める前にセンター内で注意事項を聞いた後、虫取りに出発！「カブトムシを捕まえない！」でも、そう簡単には見つかりません。はやる子どもたちにお父さんもお母さんもだんだん真剣な顔になって、カブトムシがいそうな木を見つめます。そのうちに、お父さんやお母さんのほうが昔を思い出し、真剣になって探していました。

## ◆KODOMOラムサール国際湿地交流inにいがた 2008年8月20-24日

国内外の湿地の保全にかかわる子どもたちが活動成果を話し合う「KODOMOラムサール国際湿地交流 in にいがた」が8月20日から4日間に渡り新潟市で開かれました。この催しには日本とロシア、韓国、中国、インド、タイの計6ヶ国約70人の子どもたちが参加しました。

佐潟での体験プログラムは、21日に「潟内でのハス刈り」と「わらのかかしづくり」の体験が行われました。子どもたちに佐潟で楽しい思い出をつくってもらおうと、地元の佐潟にかかわる団体や有志が準備を進めてきました。当日、奇跡的に活動時間だけ晴れ上がり、笑顔の子どもたちとかかわる皆さんがみんな満足できた佐潟でのプログラムでした。



子どもたち、スタッフ全員で



わらのかかし



潟の中は、楽しいよ！

みんなニコニコ

## ◆佐潟まつり 2008年8月31日

毎年8月末に開催される「佐潟まつり・万燈籠」は佐潟観光協会が主催し、佐潟で最大に人が集うイベントです。恒例の子ども神輿に舞いや演奏はにぎやかに行われ、地元の小中学生500人の願い事が書き込まれた「子どもとうろう」は訪れた人の心に感動を与えました。潟に浮かぶ万燈籠の点火式では赤塚中学校の生徒が見事に点燈し、まつりを盛り上げました。事前準備は大変でしたが地域で創り上げるこのまつりはとても美しく見えます。



まつりのポスター



木山保育園の演奏



芝生広場の子どもとうろう



万燈籠の点火式

## ◆潟普請 2008年9月28日

地元の各団体が中心となった実行委員会により第6回佐潟クリーンアップ活動『潟普請』が開催されました。「わたしたちの手でわたしたちの佐潟をきれいにしましょう」と、当日は300人を超える参加者が例年通りドロ上げ班、ヨシ刈り班、竹やぶ班、ゴミ拾い班に分かれ作業をしました。

ボランティア有志のゴミ拾い活動から始まったこの活動は、佐潟の歴史や地域の文化を思い起すきっかけになり、最近では佐潟の保全活動で最大イベントになってきたところです。

しかし、竹やぶ班でスズメバチに襲われる事故が発生し、この事故の経験から、今後の活動のあり方について、今一度検討することになりました。



ゴミ拾い



ドロ上げ



ヨシの刈り出し



# 夏



菜種取りする赤塚小の子どもたち



湿地センターに挨拶？カルガモ親子



2008年、絶滅危惧Ⅱ類（環境省）のミズアオイ群落が上潟の西側で300㎡以上形成されました。  
また、オニバスも所々に生育し、贅沢な景観が広がっていました。



ハス・夏の佐潟の彩り



潟舟での仕事

# 秋



晩秋の夕景



漁協の網にかかった貝。  
昔はたくさんいて食用にしたとのこと

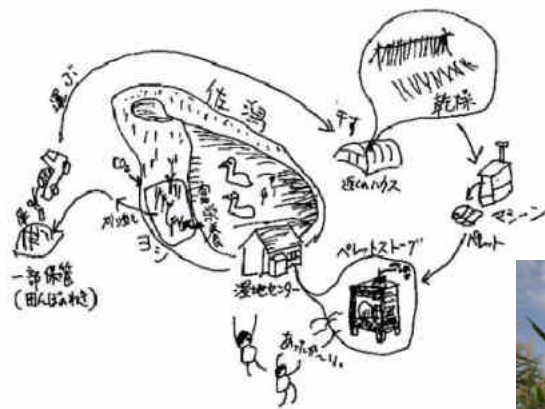


漁協の稚魚放流



佐潟ナイトハイク

佐潟での保全活動「潟普請」は、ドロ上げやヨシの刈り出しなどを地元住民主体行う活動として注目されています。また、新潟市は、佐潟の水質改善策のひとつとして、保全協議会に諮り、実施しています。刈り出したヨシはゴミとせず、主に農家に引き取ってもらい堆肥材料として活用しています。このように、佐潟の保全活動と賢明な利用が一体となった取り組みが進められています。



今回、刈り出したヨシの一部を湿地センターのペレットストーブの燃料として使用するため環境省の協力で試験生産することになりました。二酸化炭素だけでなく佐潟の栄養分を吸収したヨシを湿地センター暖房に使用するエネルギーの地産地消を考えたものです。この取り組みはマスコミに注目されましたが、燃料としては改良の余地ありという結論になりそうです。課題解決し、よい方向に進められることを期待しています。



ペレット



## ◆ハス・ヒシとり大会 2008年10月12日

ハス・ヒシとり大会が佐潟と歩む赤塚の会の主催で行われました。湿地センター近くの浅瀬で、子どもたちは水遊びのごとくびしょ濡れになりハスやヒシを掘っていました。



蓮根の天ぷら賞味



農具を使ったフロッタージュのワークショップ

## ◆ものがたりくハス・ヨシ・ツルを使って> 2008年10月26日



2008年 佐潟 「ものがたり」

湿地センターの主催で佐潟の自然の豊かさを感じてもらおうと、トバス（ハスの花托）を使ったドライフラワーや、ヨシ・ツルを使った花びん作りなどの制作体験を開催しました。15人の参加者はウィズユースの説明を聞き皆さん、たいへん素晴らしい作品を作りました。

イメージ図⇒完成作品





## ◆韓国・ラムサールCOP10参加2008年11月 と報告会2008年12月

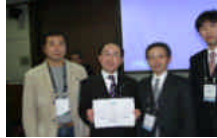


10月28日から11月4日まで、韓国・晶原（チャンウォン）市で第10回ラムサール条約締約国会議（COP10）が開催されました。COP10のサイドイベント「湿地の文化的価値～アジアを中心として」（日本国際湿地保全連合主催）で佐潟の活動「住民参加型の湿地管理～管理システムの事例」を湿地センター職員の佐藤安男氏が地域住民代表として報告しました。このイベントがCOP10ラムサール文化ワーキンググループに報告されました。またKODOMOラムサールも同時開催され、3人の新潟代表の一人として新澤岳朗くん（赤塚小学校）が活躍しました。

その後12月に開催されたCOP10の報告会では赤塚小学校6年生のすばらしい発表に会場は拍手でいっぱいでした。



会場CECO



瓢湖の登録式に参加



事例発表



佐潟と歩む赤塚の会から参加の太田さん



報告会の様子⇒



## ◆佐潟市民探鳥会2009年1月25日



毎年行われています「佐潟市民探鳥会」が開催されました。あいにくの吹雪となりましたが58人の参加者があり、初心者コースなど各班に分かれ白鳥の飛び立ちからカモや小鳥の観察に出かけました。あまり条件の良くない中、以外にも多くの47種を確認できました。



## ◆わたしの佐潟文化祭

2009年1月23日-3月1日



水彩画

佐潟の四季の風景、野鳥などのいきものや人の横顔といった佐潟にかかわるスナップや絵や書など、さまざまな表現の作品を募集しました。25人54点の参加があり、来館者に喜ばれました。



写真

## ◆佐潟冬まつり2009年3月1日

佐潟観光協会が主催する「佐潟冬まつり」が天候に恵まれ開催されました。地引網漁の体験に鯉汁、餅つきに300人の参加者が佐潟を楽しみました。魚を触る子どもたちの目が輝いていました。



参加者も網を引く



潟岸に入る参加者



鯉汁とエビ汁どうぞ



餅つきは人気

冬

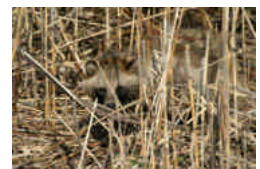


朝は白鳥の飛び立ちでにぎやか

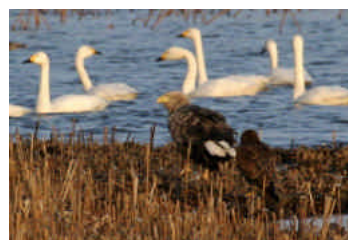
子どもの団体の体験学習としてハスフラワーづくりを応援しました。簡単なのに個性あふれる作品ができました。



スジエビをくわえたカワセミ



自然生態園でタヌキ  
今季は昼でも頻繁に出没していました。



マガモを捕らえたオジロワシがこれから食事。後ろで見つめるチュウビ。コハクチョウは我関せずのようす。

### 佐潟水鳥・湿地センター利用のご案内

【開館時間】9：00～16：30（冬期間11月から2月の土・日は7：00から）

【休館日】月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始

編集 佐潟水鳥・湿地センター

〒950-2261 新潟市西区赤塚5404番地1

電話 025(264)3050 / FAX 025(264)3051

E-mail: sakata.wlc@alpha.ocn.ne.jp

発行 新潟市西区役所区民生活課

〒950-2097 新潟市西区寺尾東3丁目14番41号

電話 025(264)7261

3月、2009年度佐潟カレンダーが完成。来館者に進呈



佐潟についての情報、質問等ありましたら、お気軽にFAXかE-mailをください。